

研 修 及 び 行 政 視 察 報 告 書

平成 29 年 10 月 9 日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

平岡 正人

梶山 治孝

渡辺 一照

石崎 元成

林田 浩秋

谷 惠介

次のとおり研修及び行政視察したので報告します。

1. 研修及び視察期日

平成 29 年 10 月 26 日 (木), 27 日 (金), 28 日 (土)

2. 研修及び調査項目

鹿児島県鹿児島市 中核市サミット 2017 in鹿児島

宮崎県宮崎市 みやざきアートセンターについて

3. 参加議員

平岡議員, 梶山議員, 渡辺議員, 石崎議員, 林田議員, 谷議員

鹿児島県鹿児島市

■研修項目

中核市サミット 2017 in鹿児島

・研修期日

平成 29 年 10 月 26 日 (木) 午後 1 時 ~ 午後 6 時

・中核市サミット 2017 in鹿児島

テーマ「地方から創る 豊かさ ~次代の「まち」・「ひと」・「しごと」づくり」

全国 48 市ある中核市の全国大会

呉市は平成 28 年 4 月に中核市に移行

・研修目的

中核市相互の連携を密にしていき中核市の行財政の運営等を図り, 各自治体の地方分権の推進をし, 邁進することを目的としている。

・研修内容

開会式

中核市市長会会長 倉敷市 伊東市長

鹿児島県知事 三反園知事

鹿児島市長 森市長

呉市が平成 28 年 4 月 1 日に中核市となり, 中核市市長会や中核市サミットに議員が参加することができるようになった。

この度, わが会派 (同志会) も初めて中核市サミットに参加した。

今年、八戸市が中核市になり、全国で48都市が中核市になっている。呉市は46番目になった都市で、広島県内では福山市と2市である。呉市は、48都市の中では、最も人口が少ない都市になる。

中核市の目的は、都市の相互の緊密な連携のもとに中核市の行財政の円滑な運営及び進展を図り、地方分権の推進に資することを目的とすることを確認した。

中核市による提言と要請をまとめて国等に陳情すること。

中核市相互の協力による取り組みとして、災害相互応援協定、中核市相互の人事交流などを提唱した。

基調講演

講師 日本総合研究所 主席研究員 藻谷浩介 氏

演題 個性ある中核市こそが次代の日本を担う

中核市の現状と将来について

なぜ首都圏の現役世代は、減っているのか？

152万人が15歳を迎え現役世代42万人が流入したが269万人が65歳を超えた。新入生152万人+転校生42万人-卒業生269万人で75万人の減少している。

東京の人口増は、高齢者増という現実である。

人口で見た中核市の表からすると48都市の中で呉市と下関市、函館市が最も現役世代が急減するが、高齢者の急増は低いようだが、高齢者の増加のピークが過ぎてしまったという考え方が適切かもしれない。

作表上、交通が不便でも元気な場所には、元気な都市がある。

地域外に出ていくお金を減らそうという心掛けが大切だということ。

地方の住人が年間に消費する額を180万円とすると、その1%の18,000円を地元産品消費に回せば人口1万人あたり1億8千万円が地元に戻る。

地方の住民1人が1年間に払うエネルギー代を40万円とするとその10%の4万円省エネを進めれば人口1万人当たり、4億円が地域内に回る。

これは給与と福利厚生250万円とすると160人分の雇用に当たる。

地産地消を考えて、地元にお金が回るようにする。

分科会

第3分科会 「地域の特色を生かした新たな産業づくり」

コーディネイター 鹿児島大学 中武貞文

パネラーは、横須賀市長、富山市長、岐阜市長、岡崎市長、尼崎市長、奈良市長、倉敷市長、高知市長、大分市長

各市の地域の特色を生かした新たな産業づくりの現状が発表された。各市の特徴を各市長が述べるというのも、大変おもしろい説明であった。

全国的には、雇用や所得の改善が見られるが、地域によっては厳しい経済状況もある。人口の減少が地域経済の縮小を呼び、人口減少を加速させている。地方の弱体化が、日本の競争力の低下を招きかけている。

【質疑応答】

質疑応答の時間が確保されていないのでない。

【呉市での展開の可能性】

呉市での展開の可能性として、地方に仕事を作り、安心して働けるようにするため、地域が持つ魅力や資源等を生かして、再び地域活性化ができるようにすることが大事ということである。

中核市としての行政の進め方を、他の中核市の方々と身近に学ぶことが、今後とも有意義な方法であるという事が鮮明になった。

宮崎県 宮崎市

■調査項目

みやざきアートセンターについて

・調査対応者

みやざきアートセンター マネージャー

工藤 悦朗

宮崎市地域振興部文化・市民活動課 課長

黒岩 寿

宮崎市議会事務局 議事調査課 主査

岩切 智広

・調査期日

平成29年10月27日(金) 午後3時 ~ 午後4時30分

・宮崎市の概要

人口 : 399,979 人
世帯数 : 177,059 世帯

・調査目的

中心市街地の空洞化の調査と中心市街地活性化を試みている宮崎市の活用例を視察した。

今後の呉市の中心市街地空洞化の実態と中心市街地活性化の遂行を考え、また呉市の既存の歴史的な施設の回遊性を考える一考察になればと思い、宮崎市の再開発施設の訪問を行った。

・調査内容

【宮崎市からの説明】

宮崎市は、平成18年の3町編入合併により287平方キロメートルから596平方キロメートルとなった。

みやざきアートセンターの設置の経緯として「夢を育むみんなの街」として色々な人が、様々な目的をもって中心市街地を訪れ、思い思いの時間を過ごし、必要不可欠な場所で、市民が街を散策することを楽しむ事が出来るような市街地を目指す。

上記のことが、平成19年5月に内閣総理大臣認定の行事として認められた。

- ① 豊かな自然の美しい都市空間の創出
- ② 多様な活力ある地域経済社会の確立
- ③ コンパクトな都市・生活空間の創出

市街地再開発事業のしくみ

目的は、規制市街地の環境改善と土地の高度利用を促進すること。

従前の土地建物の権利を、都市再開発法で権利変換の方法で変換する。

事業費は、国等の補助金と再開発の保留地を処分して充てた。

みやざきアートセンターは、文化芸術のコミュニティの再生拠点として中心市街地の文化芸術の交流を実現し、宮崎市のオリジナリティある文化力を育む場所となっている。

指定管理者制度を行い、運営をみやざき文化村に預け、その提携としてNPO宮崎文化本舗、NPOみやざき子ども文化センターを携えている。

民間との提携と運営がバランス良く行われており、スタッフは管理職2名、学芸員3名、教育担当3名、設備担当4名などである。

来館者も目標の110,000人を大きく上回り、昨年は、222,456人であった。
マネージャーはいろいろな企画を提案しており、今年のNHKのシリーズの「72時間」密着で、ストリートピアノという番組があり、その場所がこのみやぎアートセンターの1階に置いてあるピアノであった。

24時間誰が来ても引けるピアノということで、最初は、泥酔者等に壊されるかと思っていたら、深夜ピアノを弾く人はいるが、壊す人はいないようだ。

帰りに、その有名なストリートピアノをマネージャーが弾いてくれて感銘を受けた。

【質疑応答】

(問) 委託料や収入状況について教えてください。

(答) 年間委託料は約93,000千円、自主事業収入は、約31,500千円です。

(問) 企画展の運営での苦勞など伺います。

(答) 各企画も時間とお金を要しますが、企画展も当たり外れがあり、難しい側面があります。

(問) 施設に関する事で、利用者から要望は出されていますか。

(答) 館内で幼児のスペースと図書室が隣にあり、よく音について苦情があります。

【呉市での展開の可能性】

呉市においても、民間企業による仕掛けというものを勉強して見習わなければならない。

指定管理者は、絶えず企画を提供する考えをもって事業にあたるような姿勢を見せて頂かないと自治体が活性化しないことが分かった。